

今日のトピック インドの金融政策：3会合連続の利下げ（2019年6月）

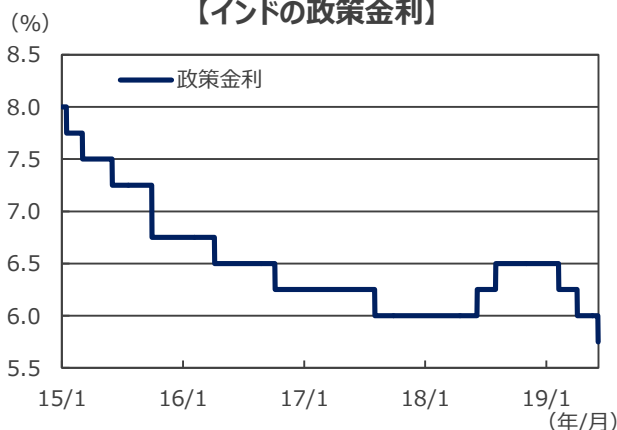
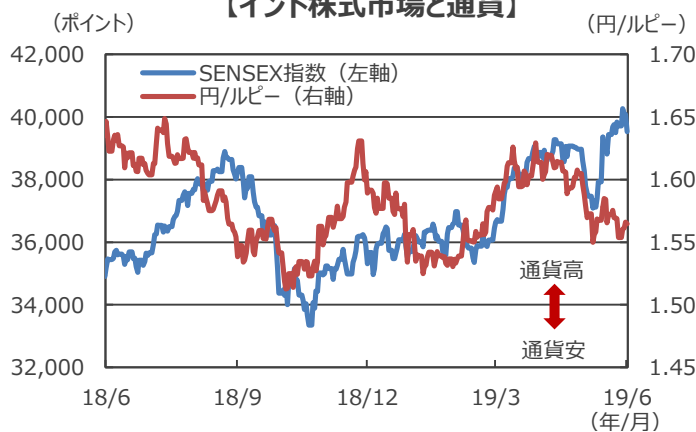
RBIは金融政策の姿勢を「中立」から「緩和」に変更

ポイント1 0.25%の利下げを実施 政策金利は6.00%から5.75%へ

- インド準備銀行（RBI）は6月6日、金融政策決定会合において、市場予想どおり、政策金利を6.00%から5.75%へ引き下げました。利下げはこれで3会合連続となります。

ポイント2 RBIは政策姿勢を「緩和」に 今後も追加利下げの可能性

- RBIは声明文で「金融政策の姿勢を中立から緩和に変更することを決定した」と述べました。6人の金融政策委員全員が今回の利下げおよび緩和姿勢への変更賛成しました。
- RBIは物価見通しの修正を小幅にとどめた一方、19年度（19年4月～20年3月）の経済成長率見通しを前年比+7.2%から+7.0%へ下方修正しました。内外需が減速しているとしたほか、今後、貿易摩擦の激化による世界的な需要の鈍化が、インドの輸出・投資にさらに影響する可能性があるとして述べました。
- RBIにとって、景気とインフレの関係では、景気下振れリスクがインフレ上振れリスクよりも深刻な問題だとみられることから、今後、景気回復の兆しがみられない場合には、追加利下げを行う可能性があります。

【インドの政策金利】

（注）データは2015年1月1日～2019年6月6日。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成
【インド株式市場と通貨】

（注）データは2018年6月6日～2019年6月6日。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 RBIの緩和姿勢や政府の財政政策などが株式の支援材料に

- 6日のインド株式市場では主要株価指数のSENSEXが下落しましたが、RBIの緩和姿勢への転換は今後の株式市場を下支えすると思われます。米中などの貿易摩擦の動向には注意を要しますが、モディ新政権が掲げているインフラ投資などの財政政策も相まって、インドの株式市場は今後も堅調に推移しそうです。

ここもチェック! 2019年5月30日 インド株式市場は総選挙を受け上昇（2019年5月後半）
2019年5月24日 インド総選挙、与党が圧勝

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。